

鉄道ファン 大穂耕一郎さん



東京都出身。秋田大学を卒業後、都内で小学校の教員として働く。57歳で定年し、北秋田市に移住。「くまのたいら企画」を立ち上げ、旅行企画や地元産品の商品化などを手掛ける。また、内陸線を盛り上げるための「夢列車プロジェクト」の事務局や「NPO 秋田内陸エコミュージアム会議 理事」など

**鉄道ファンが内陸線応援のために
移住しちやいました！**

移住のきっかけは？

北秋田市(旧阿仁町)には、秋田大学在学中に何度も足を運んでいたんです。秋田内陸縦貫鉄道(旧国鉄阿仁合線)が気に入って、写真を撮りに。

2003年に内陸線の存続のサポーターを始めて、東京と北秋田を行ったり来たりしていて、通うのが大変だった。

東京で教員をしていたのですが、57歳で次の学校に転勤することが決まっていたので、それを機にと1年前から移住の住宅を探すなど準備をして、2011年に移住しました。ちょうど3・11の地震が起きた日も引越の荷物を運ぶ予定でした。

移住をすることへの不安はありましたか？

定年退職後のことを考えはじめていた時期だったし、北秋田市に

は長く通っていたから、何の抵抗もなく移住出来ました。

北秋田での暮らしはどうですか？

移住してすぐに内陸線比立内駅のスタッフを1年、それまで以上に人脈も広げることができ、「くまのたいら企画」を立ち上げました。

今は、内陸線や小坂鉄道のグッズ製作・販売、第三種旅行業の資格を活かしての旅行企画、地元産品の商品化(ジャムやはちみつ)、市の委員など地元根ざした活動をしています。

人とつながることができるのが面白く、それがアイデアにつながり、商売にもつながる。

最近では、ラズベリーを自家栽培してジャムにするなど、6次産業化にも取り組んでいます。

これからのように活動して行きますか？

やはり地元産品を利用した商品開発、6次産業化を進めたい。ただ大きくやるとコストもリスクも大きくなるので、地元の方がちょっと稼げるような。

あと、鉄道グッズにも力を入れたい。

内陸線の車両購入を目指して始めた「夢列車プロジェクト」は、希望金額には届かなかったが、車両のリニューアルなど、これからも続けていきたい。

北秋田市の魅力は？

東京の人は遠い地と思っているかもしれないが、鉄道を使っても、飛行機を使っても、さほど時間がかかるわけじゃなく、田舎暮らしが出来るところ。

森吉山の自然やマタギ文化など、貴重なものがたくさんある。最近

は熊に対してのイメージが悪くなっているが、自分はクマ好き(笑)30年くらい前に「くまのたいら村」と言う熊と人間が共存する仮想村の本を書いたことがあるくらいです。

そして、大好きな鉄道と溪流釣りができること！

私の暮らす比立内地区は、秋田県内でも有数の豪雪地帯。2mの積雪は当たり前ですが、東京の友人も手伝ってくれたり、意外と大丈夫です。

移住を考えている人へのアドバイス

給料は安いですが仕事はあるんです。東京と同じとは言わないが、生活費は安いので意外と大丈夫。また、1つの仕事に拘らず兼業するとかも出来る。

また、都会で習得したちよつとしたスキルが活かせる、重宝してもらえます。

そして何かあつて、「助けて!」と叫べば、ちゃんと助けてくれる人がいます。

大穂さんの笑顔に、人が集まる！



「くまのたいら企画」のジャム(北秋田市内のお土産店などで取り扱い中)



自宅で栽培中のラズベリー。今年はヒメコガネムシが大量発生(@_@:)